

東村山稲門会ニュース 第29号

H11年8月7日 発行
発行責任者、大西 幸夫
編集局 塩見 之一
田口 政澄
事務局、0423-94-6951 小亀 輝雄

会からのお知らせ

◎. 平成11年9月定例会「第5回東村山雑学講座」の案内

日時：9月4日（土） 15. 00～16. 30

場所：東村山ふるさと歴史館、研修室 ☎042-396-3800

〔東村山駅、西口下車、徒歩10分〕

演題：『甦る早稲田スポーツ』

講師：関 一誠さん、早稲田大学人間科学部教授、体育局教務主任（会員）

今年の正月、箱根駅伝でのシード落ちを皮切りに、ラクビー、早慶レガッタそして春の六大学野球では、久しぶりに優勝したものの、慶應には連敗と、このところ早稲田のスポーツの聚落には目を覆いたくなるものがあります。

大学当局も奥島総長をはじめとして、この事態を憂慮し、再建策を検討しているようですが、そこらの事情を当事者の一員である、関さんにお話して頂きます。

☆ 一般市民に公開です、奥様もお誘いのうえご参加下さい。

なお、今回も会場確保の都合により開催場所が変わっています、お間違えないよう、お願い致します。

◎. 定例役員会

日時：9月4日（土） 13. 00～13. 30 発送準備（有志による）

13. 30～15. 00 役員会

場所：上記定例会と同じ

なお、一般会員の方も時間の都合のつく方は気楽にご参加ください

◎ 稲門会、納涼バーベキュー会実施状況

7月17日（土）に心配した雨も、うまく梅雨の間隙をつかみ、予定通り会員の当間宅の庭で実施できました。

参加者は総員40名（会員24名、家族16名、男性21名、女性19名）と盛会でした。場所および器具・設備の便を計って頂いた、当間さんご家族の皆様に感謝申し上げますと共に、春の花見と並んで稲門会の定例行事にしたらと言って頂いている、当間さんのご好意に甘えようかと考えています。

◎ 7月例会の第4回雑学講座『気と気功』講演要旨

講師：山本 富士雄氏 武蔵野稲門会副会長

○ 気との出会い

山本氏は若い頃から声楽を行い、早稲田では混声合唱団に属していた、本当に声を出すためには、気の活用、調息が有効なことは気付いていたが、4年前から丁気功療養研究所で気を習いはじめてから、発声に効果が出ると共に元気になり、髪の毛も残念ながら増えないが、白くならずにいる。この状態なら100才まで生きることは当たり前と思える。

今の人間社会は科学が進歩して『気』のように良く判らないものは信じない人が多くなった、信じるか信じないかは個人の自由だが、信じた方が結果は良く出ると思う。

○ 気で人を飛ばせるか

西野皓三、浦野鉦司、坪井香譲、青木宏之（新体道）、などは本当に飛ばすらしい、ただし誰でもできる訳ではなく、これらの人は武道などの技能と気との相乗効果で可能としている、また飛ばされる方もある程度気功の心得の有る人が飛ばされ易いようである。

○ 超能力エネルギーは気

念写：超能力者が念じてフィルム（印画紙）に光や画像を焼きつける現象を言う。

超能力には2つのタイプがある

1つは超感覚的知覚の持ち主でテレパシー、透視、予知能力をもつESP（エクストラセンソリー、パーセプション）は胃系、脾系に気が流れる。

もう一つは念力、念写で、スプーン曲げ（ユリ・ゲラー）などのPK（サイコ・キネシス）は心系に気が流れる。

○ 気の治療

気を出せる人が、病人の患部に手を当てることで治療の効果がでる、昔から手当するという言葉はここから出ていると思われる、また直接手を当てなくても遠隔地へ気を届けることもできる。丁先生は中国の家族に気を送っていると聞く。山本氏自身も風邪をひいて寝ている孫に携帯電話を額に当てさせ、電話で気を送って孫の容体を良くした経験がある。

歴史に残る実例として、2. 26事件の時、襲撃をうけて重傷を負った鈴木貫太郎侍従長は気功の心得のあった奥様の手当によって生命をとりとめた、その後、治療に当たった医師の記録によると『9. 56ミクロン波長の遠赤外線が患者の体内の水が正常化し細胞膜の中に入ってカルシウムイオンを流入させ、正常な細胞活動を促進した』と有る。

○ 気は遠赤外線のような一種の波動と考えられる

遠赤外線には血管拡張作用があり、血圧が下がる、血流増進効果がある、皮脂腺の汗（皮膚の深い所）が出る、身体がポカポカ暖まる、健康維持増進になることが解っている。

○ オーラも気

オーラはキルリアン夫婦（1940年代）の発見で白（癒しの気）、ピンク、緑、赤（邪気）、透明、黒などがある。

A：アトラクション（導引）、U：ユニゾン（調和）、R：リバルション（排析）、

A：アクティベーション（活性化）の略

○ 気功とは、気功の中身

気：大自然の営みを通して自然や人間を成り立たせている根源的なエネルギー

プラナー（インドのヨーガ）、バイオプラズマ（欧米）も同意語

功：鍛える、積み上げる、気功とはこの生命エネルギーを強化する自己鍛練法である。

調身：正しい姿勢と正しい動作をする。

調息：長いゆったりとした呼吸法、新鮮な気を取り入れて、古い気を排出する。

調心：意識のトレーニング、高度にリラックスした状態 ミッドの「入静」

欲望を捨てて、無駄な力をすてて、雑念を捨てる。

外気が自然に入ってくる 「入我」

○ 精・気・神

「精」あらゆる物質を構成するエッセンス、先天の気、後天の気。

「気」宇宙万物を構成する波動（微粒子）。

「神」人間の生命活動の総称および精神、思惟活動。

余分な精と気があると神も発生する。練功で精を錬ると、気が充実し、気が満ちると神が強くなる。

○ オームの修行

エネルギー～身体に集中させて興奮状態を作り出す、麻原は頭のとっぺん（百会）にエネルギーを集めて爆発的に発散させる天才で、空中浮揚も呼吸法でエネルギーを集めておいて頭から脚に一気に流すと、筋肉が収縮して飛び上がる。

べつに神秘的な事ではない、集中ばかりの過激な修行は自爆的な結果に終わる、張り詰めた糸が切れるように、突然死、過労死をまねく。

○ 現代人は気の赤字

元気は先天の気を指す、気の赤字はもって生まれた元の気を減らして生きている。

病気は気の赤字で起こる。気を溜めて黒字にすれば自然治癒力が高まり、病気にならない（未病）。不安が無くなり、心が安定する。プラス思考、確信、迷いが無くなる。

糺し速効性は無い、ゆったりとした時間の中で中国の気功を現代的に取り入れると必ず良い効果がある。

○ 戻る（帰る）原理

子供に帰る：精力、体力に溢れた状態になる。羊水の中の胎児の様に無、空、虚まで行ける。なお、気功は宗教ではない（教義はない）

○ 植物との対話（三輪敬之、早大教授の保谷稲門会での講演より）

可愛いと声をかけると美しい花をつける。頑張れ、頑張れと励ますと花が長持ちする。クラシック音楽を聞かせると植物は枯れない。

三輪氏自身の体験ビデオによると一本のトマトに何万という実を付けさせたが、イタリア出張中に実を持たせるため毎日、気（メッセージ）を送ったところ、帰国までもっていたが帰国した夜、全部一斉に落ちてしまった、その状態を日時入りでビデオに撮影してある。

このことは、植物は耳は無いが気を感じるのだろうと言える。

○ 元気を呼びこむ方法

毎日笑って暮らせばラッキーカムカム、表面的な明るさでも続けていれば中身も明るくなる。

☆元気を呼び込むのは

感謝、反省、愛（自己愛→異性愛→人類愛→宇宙愛）、素直、勇気、安らぎ、明るさ、大らかさ、希望、喜び、楽しみ、わくわく、許す、肯定。

★邪気を呼び込むのは

怒り、悲しみ、迷い、不平不満、執着、心配、甘え、驕り、欲望、悩み、疑い、拘り、絶望、苦しみ、焦り、嘆き

○ 人間は神の子（神：サムシング・グレート）

神の思し召しのままに（神：高次元に意識）、この人生を受けた、地球に生まれた、人間として生まれた、感謝。

病気、事故、怪我は“間違った道を歩いているよ”と神が指摘している。無理をしない、全てのことが上手く行くと確信しよう。

◎講演後、丁気功療養研究所の中西秀子インストラクターから気功の体験実技指導があり

初めての人にすぐできる、放松功、陰陽導引術を体験した後、土橋さんが、瞬間的に、中西さんから気をもらい、インスタント気功士になって約5メートル離れたところに後ろ向きに立った12名の人々に気を送るアトラクションがあり、12名はそれぞれ何も感じなかった人、前後に揺れた人、或いは浮き上がったような気がしたという人まで出てどうも、素直に信じたか否かが結果として現れたようでした。

7月17日(土)、当間会員と当間家のご家族の好意で久米川町の自宅の広い芝庭を開放し食材から用具まで提供して戴いたバーベキューパーティは心配された雨にも遭わず盛会裡に無事終了しました。当日調理に参加協力された多数の女性参加者に紙面を藉りて感謝します。

当日の参加会員から、大西会長および小亀事務局長経由で男女各一編の感想文が寄せられました。以下に掲載致します。(塩 見)

バーベキュー (Barbecue) の夕べ

7月17日(土)、久米川町3丁目の会員当間昭治邸の広大な芝生のじゅうたんの上で第2回「バーベキューの夕べ」が開催されました。まだ梅雨の明け切れぬ、天気予報では夕方から一雨来るとの怪しげな空模様ではありましたが、そこは参加会員諸氏の日頃の行いにより、閉会まで雨の方が降るのをまってくれました。参加者一同 “足” は自転車かタクシー、すなわち “サーツ飲むぞ” というまことに準備周到な意気込みの体制で午後4時開会の運びとなりました。

参加会員からの差し入れもタップリでアルコールは何でもあり、炭火で焼く堪(こた)えられない焼き肉の味、当間家の採りたての新鮮な野菜も山盛りで旬の味を堪能しました。また、『都の西北、紺碧の空…』などのバックグラウンド・ミュージックの演出効果につられて、ついグラスのお代わりが重なってしまいました。夫婦連れの会員も多く、40人以上の参加者があちこちで歓談の輪をつくり、楽しい時を過ごすことができました。いつしか日も暮れてきた頃お腹も満腹となり、最後に皆で肩を組んで校歌・応援歌を歌い、童心に帰って花火を楽しみお開きとなりました。

春の“お花見” 秋の“もみじ” というお酒の合う催しも結構ですが、また夏のバーベキューにビールも最高です。今回会員相互の素晴らしい親睦の場を提供下さり、一家総出で準備をして頂きました当間家の皆様に心からお礼申し上げます。来年は貴方も是非参加して下さい。

高橋 一彦 (S42理工)

■ 稲 門 会 バ ー ベ キ ュ ー に 参 加 し て ■

7月17日午後4時より、久米川町の当間さん宅にて稲門会バーベキュー大会が催されました。

400年を経たという長屋門を入ると、見事に手入れの行き届いた緑の芝生、広い庭では既に幾つものテーブルとバーベキューセットを囲んで人の輪ができていました。総勢40名、その中には11組もの御夫婦での参加や、当間さんのお嬢さん2人とボーイフレンド(現役早大生!)もお手伝いに加わり、参加者の平均年令をぐーんと下げました。

テーブルの上には男性陣の手で美味しい焼肉・野菜が次々と運ばれ、差し入れの料理と当間さんの畑からの産地直送野菜が溢れんばかりに並び、肴は十分、用意されたアルコールも大変な量でした。

八国山を越えて来られた藤沢さんの御参加もあり、ビールは勿論アサヒスーパードライ、焼酎、ウィスキー、更に燗酒もが40の胃袋に、どんどん吸い込まれていくのでありました。

テーブルを囲み、或いはグラス片手に立ったままで、遂には敷物にあぐらをかき、話しの花がいくつも咲いて、夏の宵の宴は続きます。

お互いの赤い顔がライトに浮かび上がる頃、当間さんの御両親がドライブから帰ってこられ、全員がスタンディングオウエーション! 80余才で益々お元気なお二人を囲んで一層宴は盛り上がり、冷えた西瓜が供され、更には花火、そして最後はやっぱり肩を組んで『都の西北』『紺碧の空』を大声で歌いました。神宮の森で、キャンパスで歌ったあの頃に心はすっかり帰っていました。

これだけの盛大な会を企画して下さいった役員の皆様、そして場所を提供し、細やかな心配りをして下さった当間ファミリーのお蔭と感謝で一杯でした。各同好会のPRや勧誘もあり、心もお腹も満ち足りて「早稲田」に浸れた一日でした。 大野 恵子 S46一文

第2回ハイキング行われる

第2回ハイキングは7月25日梅雨明けの炎天下のもとで行われました。横瀬駅から明智寺・西善寺（この寺は、ぼけ封じ、安楽往生、嫁姑円満成就の寺として有名で、なで仏があり、皆ぼけないようにこの仏をなでていました。また樹齢600年の紅葉があります）昼食は横瀬川のほとりで、鱒のつかみ取りをしている子供達の歓声と蝉の鳴き声そして清流の流れをバックミュージックにしてそれぞれ持参の弁当を広げ歓談しながらの楽しいひとときでした。その後ト雲寺、法長寺、（牛伏堂）語歌堂、万松山・大慈寺をまわり羊山公園へ向かいました。35度の日差しの中を皆黙々と歩いていましたが、羊山公園入り口のレストランの前で天の助け？か突如夕立ならぬ昼立ちに合いみんなで心ならずも休憩し、ビールを飲むはめになりました。そのビールの味は歩いた者にしか分からない格別なものでした。その後西武秩父駅へ向かい、仲見世通りでこんにやくを肴に乾杯し、所沢駅で解散しました、皆真っ黒に日焼けし、体力に多少の自信がついたのでないかと思います。

参加者 当間昭治 当間氏お父上（大変お元気に歩かれました）久保栄二、市川彰彦、森俊男
額田伊久夫、市川久美子、土橋雄次、小亀輝雄（同夫人）以上10名

次回ハイキングは9月18日（土）に行います。棒の嶺（969メートル）青梅戦

川井より入り、帰りはバスで飯能にでる）詳細は8月のニュースでお知らせします



◎ 囲碁・将棋 同好会

第一回の囲碁・将棋同好会を下記のとおり開催いたします。

段、級を問いません、これから始めてみたいという人も歓迎します。

なお、折りたたみの碁盤、将棋盤や碁石、駒をお持ちの方は、ご持参下さるようお願い致します。

記

日 時：8月22日（日） 午後1時～5時

場 所：東村山市民センター別館（市役所前） 第6会議室

会 費：無 料

世話人代表、江藤 昌明 ☎ 042-391-4076

鈴木 国夫 042-394-2052

郷土史の会

幹事 三宅 良太 Tel 042-394-5298



久し振りで郷土史の会を下記の日程で催します。色々興味深いお話を聞かせて頂けることと楽しみです。多数お集まり下さい。

日 時 : 8月21日(土) 14:00~16:00

場 所 : 東村山ふるさと歴史館 研修室

(ふるさと歴史館には駐車場がありません。ご承知おき下さい)

講 師 : 両澤 清 氏(日本民話の会会員・東村山郷土研究会会員)

テーマ : 東村山の風土と民話

(28号の記事の再録)

*両澤清先生のお書きになった論文「東村山市昔語りの中の民話について」が「東村山市研究第2号」に掲載されております。同号は既に品切れで販売されておきませんが、各図書館に必ずありますので、ご参考になさして下さい。

郷土史折々(1)

ー玉川上水を歩いてみるー

梅雨明け前の土曜日、思い立って羽村の郷土資料館まで行ってきました。羽村の駅から歩くこと10分。玉川兄弟の像を横目に見やり、折から多摩川の河原で家族連れが準備を始めたバーベキューの臭いに鼻先を擽られながら、対岸の土手沿いに資料館へ。モダンな建物の中で展示の中心はやはり玉川上水の開削にまつわる話。ジオラマや要領よく纏められたパネル、短編の説明ビデオで何となく分かったような気になる。ついでに企画展の中里介山にザット目を通し、「大菩薩峠」は半分まで読んで挫折したんだっけと厭なことを思い出す。受付で「玉川上水散歩マップ」を買い求めて、いよいよこの羽村の取水堰から水の流れに連れだってひたすら玉川上水を下る旅に出た。

取水堰まで取って返し、上水を左に見る遊歩道を桜の葉陰に守られるようにゆったりと下っていく。福生加美上水公園で上水の旧跡を見る。この辺りまで上水は少しずつ高度を稼ぎながらもまだまだ多摩川と平行に走っている。旧跡は、大雨の時に上水が多摩川へ崩落していった跡である。羽村から2 km 地点。公園を過ぎると一般の車道沿いに上水を右に左に付かず離れず歩いて往く。途中のコンビニで昼飯を買い込み水喰土公園で一休み。この水喰土というのは、上水開削時に2度失敗したという由来の地。公園内に失敗堀の跡がある。実は土地の古老の話を採り上げ、玉川兄弟の開削が兄弟だけの力では及ばなかったことを指摘したのが、東村山野口村の八王子千人同心小嶋文平。ふるさと歴史館でいま小嶋文平の特別展が開かれている(8月1日迄でした)。さり気なく展示されているが小町家本の「玉川上水之起元并野火留分水之訳書」は歴史的にも貴重な資料。公園沿いの遊歩道を抜けると羽村から5 km 地点。西武線の拝島駅が目の前だ。(つづく)

郷土史と園芸についてのお知らせを担当する事になりました。ページ毎の担当割りとなりましたので紙面に余白が出来たときには自分の責任で埋めろと言うわけで、拙い雑文を書ってみました。

(伊藤)



テニス同好会

7月20日(祝)は前2回(5月16日・6月27日)が雨天中止だった為、久しぶりの例会となりました。梅雨明け間近で時々雨の蒸し暑い陽気でしたが、運動公園のテニスコートはまずまずのコンディション。参加者10名元気いっぱい、気持ちよい汗をかきました。

例によってペア対抗戦は戸田・山下夫人ペアの圧勝。続いて行われた「あさひや」での昼食会では、17日(土)のバーベキュー大会も話題となり、なごやかなうちにお開きとなりました。

なお、塩見夫人から次回はプレーに参加したいとの力強いお話がありました。

(当日参加者 : 江藤、三宅、市川、田島、戸田、当間、同夫人、町田、同夫人、山下、同夫人、オブザーバー : 長井、塩見夫人)。

次回は三度目の挑戦となりますが、下記会場が予約できました。奮ってご参加下さい。

記

日 時 8月29日(日) 午前10時~12時

場 所 市立第2中学校テニスコート(3面)

久米川町2-4-1 TEL 391-9112

幹事 当間 TEL 391-6023



ゴルフ同好会

○猛暑耐久練習ラウンド報告

①梅雨明け耐暑練習ラウンド・・・本格コースで土曜日にたっぷり汗かき。

上記の呼びかけがそのままピッタリの7月24日(土)。朝6時の都心の気温が27度。

予定を早めて8:14に若手の第1組(深川・木谷・当間)、続いて古手の第2組(大西津野・井垣)が合計打数の勝ち組は昼のビールがおごりで飲めるという餌を励みに猛暑のコースをティオフ。木蔭を吹き渡る風が唯一の救いの日でした。

わずか2打差の勝ちで、昼のビールを満喫した積もりの若手組の二人に後半バテが出て、3打多く叩いただけに押さえた古手組に大差の負けで、結局自腹勘定の羽目に・・・。

これがホントの「ビール(水)の泡」でした。(井垣 記)

②平日利用名門コース練習ラウンド・・・真夏の富士を仰ぎ見ながら高原プレー。

8月3日(火) 於富士CC 紙面の都合上、9月号でご報告します。

○第6回会長杯コンペは10月16日(土)に決定

○第2回三多摩稲門ゴルフ会9月29日(水)西武園GC

◎知っ得ゴルフ 最終回 ご愛読多謝

18番ホール ーマナー・エチケットー

世界共通のゴルフ規則(勿論プロ・アマ共に)の第一章に何が定められているかご存知ですか。そう、エチケットなのです。冒頭は下記の文章です。

プレーヤーは、ストロークや練習スイングをする前に、次のことをよく確かめるべきである。

(イ) クラブが当たるような身近な所に誰も人がいないこと。

(ロ) 球や石・小枝などが飛んでいって当たる恐れのある所に誰も人がいないこと。

プレー規則の前に書いてある◎コース上の礼儀◎コース上の先行権◎コースの保護の3項目について守るだけで、あなたは素晴らしいプレーヤーとして楽しくゴルフが出来るのです。

400円払って、ゴルフ規則書を買ひ、第1章を読まれる事をお奨めします。

『長い時間かけてやってきたけど、あんまり上手くなかったわよお客さん。またやる氣?』

♣ 麻雀同好会

第9回麻雀大会を下記にご案内いたします。会員の皆様奮ってご参加
お願いいたします。

練習会は幹事のスケジュールおよび他同好会との関連で8月末までの実施が難しいので今回は見送ることにいたしました。ご理解のほどお願いいたします。

記

日 時：9月19日（日）12時30分

申込締切：9月11日（土）

場 所： マージャンM

本町 4-12 アメニテイパレス B1

TEL: 397-5228

会費：6千円（競技代、賞品代懇親会費用すべて含）

小野 (391-9523)

田口 (395-4077)

以上

絵画同好会

酷暑の季節となりました。絵描きにとってこの時期は秋の絵画展出品を目指してアトリエにこもって制作に励むか、強い太陽のもとで鮮やかに彩られた海浜のホテルや、軽井沢・妙高山麓・清里などの避暑地の清潔なテラスでスケッチブックを開くなど一見贅沢に見えて当人は取材に苦しみと言う楽しみと新しいものを生み出す忍耐が同居する活発な個人活動の季節と言えましょう。

同好会活動のスケッチ会は秋まで休むこととなりますが、この夏以降の成果は例えば来年1月の東村山市美術連盟展その他で発表されますのでご覧ください。

秋のスケッチシーズンに備え絵画研修希望の方は、長井 TEL 393-0795 or 塩見 TEL 395-3718 までご連絡下さい。（塩 見）

編集後記

本紙の記事の質と量が着実に向上し8頁が常態となりつつあります。ニュース編集サイドはマンネリを防ぐこととEメールを活用して編集の効率化をはかることを目標に編集陣に新たに伊藤さんに加わって頂き大西会長、小亀さん、木谷さん、田口さん、井垣さん、伊藤さん、塩見のチームづくりのメドがたちました。最近、井垣さんと伊藤さんの間でEメール接続の知らせがあり田口さんとのトライアングルが可能となりました。機関紙編集にEメールを使う稲門会は稀れであるところから、空白域の東村山市の西北部と東南部にEメールの新拠点を作ることがネットワーク作りの今後の課題となりました。貴重な時間と労力を節約して効率的に仕事を進めるこの手法は近い将来、我々の身近なところで使われるのは時間の問題と言えますので、特に若い方々はEメールや ホームページ の正しい利用方法を積極的に確かめては如何がでしょうか。(塩 見)